

どんな人でも お出かけ しやすい社会を

まち・人・公共交通
プロデューサー



経済経営学類 准教授

吉田 樹

YOSHIDA Itsuki

【専門分野】 地域交通・観光政策、まちづくり、地域経済

【プロフィール】 東京都立大学大学院都市科学研究科博士課程修了。首都大学東京都市環境学部助教などを経て、2013年4月より現職。青森県八戸市、南相馬市をはじめ、全国各地の地域公共交通政策に携わり、「現場での実践」に基づく理論構築に努める。

みなさんは「お出かけ」するとき、移動手段として何を利用しますか？マイカーという方が多いことと思いますが、地域の鉄道やバスといった公共交通が衰退すると、お出かけの機会が制限されてしまう人が増え、街も車ばかりで楽しく歩ける空間が失われてしまいます。人は移動するとき様々なニーズを持っています。最近では、インターネットの普及により、家にいながらモノやサービスを調達することができますが、人が実際に移動することで初めてコミュニケーションが生まれ、街の賑わいにつながります。そのためには、地域公共交通の活性化が不可欠なのです。

私は、これまで全国各地で、まちづくりと公共交通を結びつける取り組みを行っ

てきました。例えば、青森県八戸市では、路線バスを利用して、観光、昼食、街歩きを楽しむバスパックを提案し、好評をいただいています。また、最近では、ゼミの学生が飯坂温泉を古地図で巡る「飯坂今昔散歩」というパンフレットを作成しました。街歩きを楽しみながら、飯坂電車沿線の新しい魅力を発見してもらえればと思います。

公共交通は、街と人をつなぎ、街を活性化させる「血液」のようなものだと思います。この血液をうまく循環させるためには、行政、事業者、市民が一体となった取り組みが必要です。公共交通を再生させることで、どんな人でもお出かけしやすい社会を実現し、魅力的なまちづくりに繋げていきたいと考えています。



研究概要

人口減少と高齢化が進行する地方都市では、地域公共交通と連携した「コンパクト+ネットワーク」の都市構造を指向することが求められています。地域公共交通の再生や再構築に関する取り組みを契機に、市民の交流機会を増やす「交通まちづくり」を戦略的に展開することで、地域内あるいは地域間の経済循環を高めることが期待されます。私は、公共交通サービスの提供が市民のアクセシビリティ (Access to Service) を向上させ、それが生



活の質 (Quality of Life) 向上や地域産業の活性化に結び付くというシナリオが成立し得るかについて、各地のフィールド研究を通じて、実証的にアプローチしています。

こんなこと
できます!

地域公共交通の再生から「まちづくり」をプロデュース

想定するパートナー

行政、公共交通事業者、観光関連産業、地域組織

具体的な連携、事業化のイメージ

地域交通システム・政策・制度、公共交通事業経営

これまでの取組事例

全国各地の地域公共交通会議等に委員やアドバイザーとして参画する傍ら、フィールドにおける実証分析と定量的アプローチを含めた理論構築の双方から研究を進めています。公営・民営バスの共同運行を契機としたバス路線網の再構築、運賃低廉化施策 (八戸市)、地域組織による移動手段の確保 (山形市、佐井村) など多数の取組があります。

関連情報

主な著書に『生活支援の地域公共交通』(学芸出版社、共編著)。
『地方部や小規模集落の地域公共交通と交通政策基本法』
(運輸と経済75(6)、pp.52-60) など、論文も多数。

私たちの研究室自慢!

会津若松市内の酒蔵や店舗で特典を受けられる「おちよこバス」を会津バスさんと開発しました。会津塗の「おちよこ」がバスの一日乗車券になり、酒蔵の試飲でも使えるユニークな取り組みです。



防災
都市計画

地域
産業振興

環境



社会基盤

こんなことができます!

都市計画・まちづくりにかかわること



都市計画・まちづくりに関して、さまざまな活動を行っています。

放射能被害、地震被害、津波被害からの復興まちづくりをはじめ、土地利用、都市・地域再生、中心市街地活性化、環境まちづくり、景観まちづくり、観光まちづくり、農山漁村の振興など。

想定するパートナー

都市計画・まちづくりにかかわる市民、行政、事業者など

具体的な連携、事業化のイメージ

都市計画・まちづくりにかかわる構想・計画の作成、事業化、管理運営など

これまでの取組事例

福島県：都市計画審議会、開発審査会、公共事業評価委員会、商業まちづくり審議会、福島駅前通り整備計画策定協議会

市町村：福島市公共事業評価委員会、福島市都市マスタープラン策定懇談会、本宮市まち・ひと・しごと創生有識者会議、田村市総合計画審議会、川俣町都市計画審議会、会津美里町都市計画マスタープラン策定委員会、須賀川市市民交流センター管理運営協議会、双葉町まちづくり計画（第二次）有識者会議



共生システム理工学類

川崎 興太

KAWASAKI Kota

准教授 博士（工学）

専門分野

都市計画・まちづくり

特許情報、著書、論文

『ローカルルールによる都市再生』（単著、鹿島出版会、2009年）

『人口減少時代における土地利用計画』（共著、学芸出版社、2010年）

『東日本大震災合同調査報告 都市計画編』（共著、日本計画学会、2015年）

教育
学習支援

健康
福祉

防災
都市計画

地域
産業振興

食・農

経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク
材料

エネルギー

ものづくり
技術

社会基盤

フロンティア



こんなことができます!

美術制作、鑑賞、
芸術企画に関わる
サポートをします



夢

ARTに満ちあふれた、
豊かな地域文化の生活を
めざしたい

人間発達文化学類

渡邊 晃一

WATANABE Koichi

教授 芸術学修士

研究室 URL

<http://www.wa-art.com>

専門分野

絵画、現代美術
(制作学、美術解剖学)

特許情報、著書、論文

主な著書に『絵画の教科書』、
『渡邊晃一作品集 テキストとイマ
ージュの肌膚』



美術制作、美術解剖学をテーマに
研究。国内外の企画展に参加。文
部科学省在外派遣研究員。ペンシ
ルバニア州立大学客員研究員。郡
山市文化芸術振興基本計画策定委員、福島県
「八重の桜」キャラクター審議委員、経済産業省
地域資源活用型研究開発事業、全国生涯学習
フェスティバルなどのアドバイザーを歴任。芸術企
画による国際交流として、CCGA(大日本印刷株
式会社)ゼミナール、「福島ビエンナーレ」「風と
土の芸術祭」「豊穰の芸術祭」などを企画監修。
舞台美術の制作(新国立劇場)や映画制作の協
力。震災後の復興支援活動が小学校「図画工作」
教科書に掲載。第30回教育美術賞(佐武賞)。

想定するパートナー

芸術文化施設、企業、教育諸機関、保育園、生涯学習課、
商工会議所、観光協会・温泉組合、被災自治体など

具体的な連携、事業化のイメージ

芸術文化の振興(絵画、現代美術、映像メディア等)。地域
資源を通じた芸術企画。地域産業と連携した研究開発の支援。

これまでの取組事例

- ・企画監修:「福島ビエンナーレ」、「風と土の芸術祭」
- ・震災復興支援:「鯉アートのぼり」(福島市街地、福島空
港ほか)、「黒塚発信プロジェクト」(福島県立博物館)
- ・講座:油彩、水彩教室、人体素描
- ・映像協力:『万能鑑定士Q』(2014)、『図書館戦争』
(2015)、日本テレビ『ルーヴル美術館特別番組』(2015)

教育
学習支援
健康
福祉
防災
都市計画
地域
産業振興
食・農
経営支援
ファイナンス
人材育成
法律
ライフ
サイエンス
情報通信
環境
ナノテク
材料
エネルギー
ものづくり
技術
社会基盤
フロンティア



こんなことができます!

水災害、水環境の 現在と将来像を 調査解析します



夢

安全、安心な「社会と自然」
の環境創生に向けて、
ささやかながらも貢献したい

共生システム理工学類

川越 清樹

KAWAGOE Seiki

准教授 博士（環境科学）

研究室 URL

<https://sites.google.com/site/kawawater/>
E-mail: kawagoe @ sss.fukushima-u.ac.jp

専門分野

自然災害科学、水文学、河川工学

特許情報、著書、論文

平川新・今村文彦（分担執筆）、東日本大震災を分析する、明石書店、2013、高橋裕・實馨、野々村邦夫（分担執筆）、全世界の河川事典、丸善出版、2013、川越清樹・江坂悠里・伊藤圭祐・脇岡靖明、気候モデルを用いた将来の土砂災害被害額推計、土木学会論文集G（環境）、70、1、167-176、2014、S. Kawagoe, S. Kazama, and P. R. Sarukkalgige, Probabilistic modeling of rainfall induced landslide hazard assessment, Hydrology and Earth System Sciences, 14, 1047-1061, 2010.



地球温暖化を含む気候変動による災害リスク、水環境の影響評価を中心に研究を展開しており、世界規模から地域までの広い空間スケールを対象に自然や社会を包括した安全、安心な環境づくりの検討を進めています。また、この研究と関連して、将来の世界像を見積もり、緩和策、適応策として相応しいインフラ、住民の取り組みの提案を検討しています。世界規模から地域までの広い空間スケールを対象としており、当然、対象とする地域の調査も重視していますが、地域固有のデータだけでなく世界や日本各地の状況とも比較をしてニーズに最適な解を求めることができるよう努めています。

想定するパートナー

国や自治体

具体的な連携、事業化のイメージ

- ・地球温暖化による水環境影響評価
- ・豪雨による水・土砂災害の影響評価
- ・ダム堆砂による影響評価
- ・水循環の健全化

これまでの取組事例

リバーカウンセラー（国土交通省東北地方整備局、阿武隈川上流）、うつくしま福島水プランアドバイザー（福島県）、福島県 BCP 策定支援プロジェクトアドバイザー（福島県）、福島県防災会議専門委員会（福島県）、環境アドバイザー（福島県環境センター）、福島県環境評価委員会（福島県）など

教育 学習支援
健康 福祉
防災 都市計画
地域 産業振興
食・農
経営支援
ファイナンス
人材育成
法律
ライフ サイエンス
情報通信
環境
ナノテク 材料
エネルギー
ものづくり 技術
社会基盤
フロンティア



こんなことができます!

盆地や火山の
成り立ちを調べ、
その魅力や災害を
語ります



吾妻山の噴気 (2011年10月20日撮影)



夢

破局噴火がいつ・どこで・
どうして起こるのかを解明
したい

共生システム理工学類

長橋 良隆

NAGAHASHI Yoshitaka

教授 博士 (理学)

専門分野

火山地質学、第四紀地質学、
テフラ学

特許情報、著書、論文

- ・ふくしまの火山と災害、歴史春秋社、2006年。
- ・福島県猪苗代湖の湖底堆積物コア (INW2012) の岩相層序と年代、第四紀研究、2014年。



過去の自然環境を知ることは、自然環境の現在の評価や将来予測のためにも重要です。人間が生活や社会活動を営む平野や盆地、多くの人が訪れる火山とその周辺の自然景観などが、どのような過程を経て今そこにあるのか。自然環境の変遷史や火山の噴火史についての地質学的研究を進めています。

最近では、吾妻山・安達太良山・磐梯山の爆発的火山噴火史の解明に取り組んでいて、それと福島盆地や猪苗代湖における火山泥流との関連を調べています。

想定するパートナー

地方自治体、地質系コンサルタント

具体的な連携、事業化のイメージ

火山噴火と災害に関する講演、火山防災に関する助言

これまでの取組事例

- ・福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 (吾妻山・安達太良山・磐梯山作業部会)
- ・吾妻山・安達太良山・磐梯山火山防災協議会
- ・火山噴火と災害に関する講演
- ・福島県環境アドバイザー

教育
学習支援
健康
福祉
防災
都市計画
地域
産業振興

食・農
経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク
材料

エネルギー

ものづくり
技術

社会基盤

フロンティア

